

石山の守り神「大山阿夫利神社」

宇都宮伝統文化連絡協議会 柏村 祐司

大谷街道の終点は、大谷寺であるが、大谷寺へは至らず、大谷景観公園方面へ左折すると程なくして右手岸壁の下部に大山阿夫利神社がある。鳥居をくぐるとちよつとした広

祠の中には神奈川県伊勢原市に鎮座する「大山阿夫利神社」の木札が納められており、この石祠が大山阿夫利神社であることがわかる。

日本人は、田には田の神が、山には山の神、海には海の神等実にさまざまな神仏を信仰する世界でも稀な民族である。大谷で石材業に携わる人々は、山での安全と大谷石の生産が豊かである事を祈り、各自の採掘現場の近くに必ず山の神を祀つたものである。中には一カ所のみならず、主要な採掘現場ごとに複数の山の神を祀る業者もいた。

これに対し大山阿夫利神社は、大谷石石材業者が共同で祭祀した山の神である。祭日は春秋の二回で、春は一月二十五日、秋は十月二十五日である。平成二十年頃は、まだ昔ながらに祭りが行われ、一月二十五日は、午前中各石材業者が参列の上、祠の前に設えた祭壇に重ね餅・お神酒・お頭つき鯛・野菜・果物等を

場があり、岸壁を背にして祠が、前には祠を守るように狛犬が二基鎮座している。鳥居も祠も狛犬も全て大谷石製であり、特に祠は木造の祠に劣らないくらい細部にわたって彫刻がなされた立派なもので、いかにも大谷石の産地、しかも大谷石生産に関わる人たちの守り神ならではのものである。

日本人は、田には田の神が、山には山の神、海には海の神等実にさまざまな神仏を信仰する世界でも稀な民族である。大谷で石材業に携わる人々は、山での安全と大谷石の生産が豊かである事を祈り、各自の採掘現場の近くに必ず山の神を祀つたものである。中には一カ所のみならず、主要な採掘現場ごとに複数の山の神を祀る業者もいた。

お札を二枚受けてくるものである。一枚は大山阿夫利神社の祠の中に納め、一枚は協同組合の事務室に供えた。

大山阿夫利神社の祭礼は、大谷石石材業の衰退に伴い近年めっきり寂しいものになった。しかし「大谷石文化」が日本遺産に認定されたことで、阿夫利神社にも陽の目が当り出した。雑誌等に瀟洒な祠の写真が時折掲載されるようになった。

大谷石の産地、しかも大谷石生産に関わる人たちの守り神ならではのものである。

これに対し大山阿夫利神社は、大谷石石材業者が共同で祭祀した山の神である。祭日は春秋の二回で、春は一月二十五日、秋は十月二十五日である。平成二十年頃は、まだ昔ながらに祭りが行われ、一月二十五日は、午前中各石材業者が参列の上、祠の前に設えた祭壇に重ね餅・お神酒・お頭つき鯛・野菜・果物等を

と雨乞いの信仰から起こったとされる。江戸時代に入ると庶民からの崇敬も厚く、関東各地で「大山講」が組織され俗に「大山詣り」と呼ばれ、雨乞いのみならず、さまざま大山への参詣が隆盛を極めた。

こうした大山阿夫利



大山阿夫利神社石祠

こうした大山阿夫利

こうした大山阿夫利



ご本社から受けてきた木札